

雜錄

○製鐵合同に關する高橋總裁の演說

去月政友會近畿大會席上に於て高橋總裁の試みたる演說は左の如くてある。

從來世界の各國は互に國防の充實に全力を傾け來つたのであります。歐洲大戰後氣運一變して列國互に平和を念とし相協調して軍備を縮小し人類輯睦の實を擧げんとする情勢に轉じたるは誠に慶賀すべきことであります。然しながら今や各國は平和の競爭に優勝を占めんとし、殊に經濟力の伸張に最善の努力を拂ふに至り其爭霸戰は却て益々激甚を加ふるに至つたのであります。我國民亦此趨勢に着眼して上下一致發奮興起せねばなりません。

我が經濟界は歐洲戰爭以來長足の進歩を遂げ產業の興隆國富の增進貿易の伸暢國民所得の增加等戰前と日を同ふして談ずる能はざる狀態であります。然れどもこれは主として大戰爭の影響に基因せるものであります。而して、平和克復後の今日に於て依然として此地歩を維持し益健實なる發展を期せんためには國民舉つて一大覺悟を必要とし隨て經濟上の根本問題に就ても亦考究すべきものが多々あるのであります。私は此機會に於て其主要なるものゝ二三に就き卑見を申述べて見たいと思ふのであります。

先づ我國に於て基礎的工業に對し未だ確乎たる國策の樹立

を見ざるは誠に遺憾の至であります。例へば彼の製鐵事業の如きは基礎的工業の隨一とも申すべきてあります。我國の製鐵事業は尙發達不充分にして今日官營民業共に經營困難の立場にあるのであります。元來我國には鐵礦の產出少なく技術も尙未熟なるが爲め英米獨等の先進諸國との競争は固より容易のことではあります。偶々戰時中には輸入杜絕の爲我

製鐵界は一時活況を呈し其間當業者の苦心の結果熟練なる技師職工等も養成せられたのであります。平和克復と共に再び外國製品に壓倒せられて何れも悲況に陥り今や殆んど廢業の止むなき有様に在るものも少なからざるは實に遺憾至極のことであります。然らば製鐵事業は我國に於て到底望みなきやと云ふに必ずしも左様ではないと信じます。國內の原料は不足とは申しながら未だ調査も充分ならず、且つ國外より經濟的に供給を得ることも出來るのであります。要するに其成否は經營の方法如何に由ることと考へるのであります。

從來の如く政府に於ても民間に於ても互に割據して連絡統一を缺くのみならず、所謂科學的管理經營の考究等も行はれず、殊に小資本を以て單獨事に當るが如き有様では到底外國との競争に堪へることは出來ませぬ。左りながら將來官民の事業を合同し、智識と熟練と資本とを綜合集中し偉大なる頭腦をして之が經營の任に當らしめたならば、必ずや相當の成績を擧げ得ること、信じます。而して此事を成すには先づ政府の需要する鐵類は總て此合同機關に特約して購入することとし、其他適當なる方法によりて事業を保護するの手段を講ずると同時に株主に對する利益の保障並に利益配當率の制限を設定するが如き方策を樹つることが急務であります。斯く

して國家的事業として自給自足の根本確立し外國との競争に堪ふるまでに發達せば總ての工業界に惠澤を及ぼすに至ることは申すまでもないのです。故に私は官民協力して此國策を確立せんことを熱心希望するのであります。他の基礎的工業に付ても亦同様なる精神を以て相當なる方法を立つるの必要ありと認めます。云々

○製鐵業根本整理 製鐵業救濟策として唯一の方法で

あると稱せられた製鐵業の合同問題も目下行惱みの態であるが、しかし我が製鐵業をこのまゝに放任して置いたら早晚必ずや自滅の外ないのであつて、假令その一部は生き残るにしても再び起つ能はぬやうな大痛手を被るに相違ない。其處で當業者が虚心坦懐姑く自家の利益を第二にし眼界を廣くして本邦製鐵事業の將來といふ所へ思ひ至つたならば理想的合同論を次第に實現化し得るであらうと農商務當局は觀測して居る模様である。即ち現在我が國製鐵事業の狀況を見れば原料礦石は支那から比較的安價に契約したものが輸入される結果として米國や英國に比し遙かに有利なものを得られる、若しく鑛石關係からのみ見れば優に外國品に對抗し得られる譯であるが生産費としては寧ろ礦石よりも重要な位置にある燃料において非常な不利の立場にある爲めに先年輸入税を引上げて内地品の保護を策したにかゝはらず尙當業者は悲境に沈淪して居るのである。果して然ならば我が製鐵業をして外國との競争に對抗せしめその維持發達を圖らうとすれば何うしても生産費の節減、主として燃料關係をより多く經濟的ならしめねばならぬ、實際今日の本邦製品は概してその賣價を以て漸く

生産費を償ひ得る程度であつて利益を得る事の不可能なるは勿論兎もすれば損失を重ねんとして居る。そこで之を救済する爲めには第一戰時中好景氣の勢ひで興つた事業で設備の不完全なものを整理し技術上經濟上充分自信を持ち得る程度に精巧な機械設備を爲す事、第二石炭を製鐵用燃料とする場合に生ずる副產物の利用を完全にする事等緊要な事項である。

第一の場合について見れば戰時中鐵價の暴騰に刺戟されて勃興した我が國の製鐵業は生産に急だつた爲に設備頗る不完全なもの多く爲に燃料の不經濟な事は勿論、その他生産費の嵩高が著しく、漸く其設備の整理改善を必要とするに至つた時にはモウ斯業の不況時代に遭遇し資金難に陥り如何ともなし得ない場合になつてゐた、従つて今日前記の如く鑛石關係が非常に有利で充分外國品に對抗し得るやうになつても之以上はいかんともし得ない状態で設備の改善さへすれば充分採算を得る事が分つて居ながら事實何うする事も出來ないのである。

第二の場合についても同様で好景氣時代に出来るだけ手廣く擴張してしまつた爲め今更副產物を利用する設備をしたくても全く資産が得られないと云ふ状態で、かくの如くして炭價は英米に比し遙に高値である上に設備の關係から消費量の平均が多く副產物の利用が完全でないから、彌やが上にも不經濟な立場に置かれて居るのである。かくの如く本邦製鐵業の缺陷は大體その見當が付いて居て是が缺陷を補ひさへすればこの場合充分救済し得るので先立つ資金が缺乏して居るので如何とも仕様がないのである、其處で合同論の根據は鑛石の輸入、石炭の買入等に便宜を得て生産費の低下を圖り且つ

製品の共同販賣によつて需要に適應する製品を作り販賣上に便宜を得ようと云ふやうな有り觸れた問題よりも、もつと根本的に本邦製鐵業の維持發達を畫する上に生産上の根本的整理を行ひ所謂製鐵業の樹て直しを行ふ必要に迫られて居るのである。

斯う云ふ大目的遂行の爲には官營製鐵所とても決してこの本邦製鐵業大合同の一大傘下に集まる事を拒否しない決心らしく、また官營製鐵所が加はらない製鐵業の合同は全く無意義であると云ふ製鐵所當局の意向である事から考へても大凡の見當はつくと云ふものである、かくて本邦製鐵業の維持發達を策せんとすれば何うしても當業者がかくの如き趣旨において合同の傘下に集り先づ自ら充分の整理を斷行して有意義且理想的の大合同をなしその信用を以て資金を吸收し事業上の低下を圖るならば關稅と、製鐵業獎勵法により相當な保護を加へられて居る本邦製鐵事業は優に英米のそれに對抗し得るであらう。政府當局が口に合同の必要を唱へながら未だこれが促進に充分力を盡さないのは國民當業者が自家の採算に急で本邦製鐵業の維持發達ふ根本的の問題から本氣に合同の機運を作らうとしないからである。今日の如き製鐵業の不況が尙當分續くにおいては自然淘汰的の整理が相當に行はれるであらうし、相當資力の續くもので孤立の不利に自覺するものが出來て政府當局の考へて居るやうな理想的合同に參加しようと云ふものも生ずるであらうから。その機會に乘じ今日曖昧な態度で居る官營製鐵所當局も自ら陣頭に立つて大合同の促進に力むるやうな機運が来るかも知れぬ、その時こそ

本邦製鐵業が根本的に救濟される時であると觀測されてゐる。
(東京日日)

●製鐵合同觀

村 越 生

鐵材相場が戰後の約十倍、物に依つては約十四倍強の高値を出した七年八、九月當時北海道にも十五噸乃至二十噸程度の鎔鑛爐を以て、江別、後志、登別、其他の地方に小製鐵所が勃興したが爾來銑鐵相場漸落の結果既設日本製鋼所を除く他の製鐵所は悉く鬼籍に歿して終つた。同製鋼所も百二十噸爐三基、八十噸爐一基の内現在火入れをして居るのは僅に百二十噸爐一基に過ぎない有様である、思ふに今の銑鐵相場で行くと一般に生産費に切り込まず利益を擧げて居るのは獨り印度あるのみである。故に絶えず印度鐵に壓迫されるのも無理のない譯で是は獨り北海道に限つた悲慘の有様のみではない。是に於て外鐵に對抗すべく爰に製鐵合同問題が生れ來り又合同の機運を促進せしめやうとするに至つた所以である。合同の利益を擧げて見れば(一)製品の統一、(二)販賣上の統一、(三)無用の競争を避ける事、(四)社長重役の減少、(五)工場位地近ければ動力の統一が出來ると云ふ點にあるのであるが仔細に我が製鐵品を分類して見ると

- 一、銑鐵を主とするものに東洋製鐵、本溪湖、鞍山、山陽製鐵
- 二、鋼材を主とするものに日本鋼管、小倉製鐵、九州製鐵、川崎造船、大阪
- 三、製鐵、日本製鋼、富士製鐵、大島製鐵、淺野製鐵、神戸製鐵、三菱造船
- 三、銑鐵兼業のものに日本製鋼、八幡製鐵、兼二浦、釜石

ら輸入しなければならず、運賃も相當に要し石炭も安いもの

でなくコークス用の石炭の或部分は開平、撫順に俟たねばならぬと云ふ状態であるから生産費は勢ひ嵩んで来るに反し鋼材を主とするものは銑鐵やスクラップが安く手に這入れば生産費は辛うじて償ふと云ふ立場にある。只ロールの設備が戦時中の好景氣時代に之に應すべく計畫されたものだけに戦時賣行きの良好なるものを造る設備を平時の常態に應ずる様に取代へねばならぬ事情がある。専門の會社は既に設備を變へたものもあり、是等應變の處置をとつた事業者にあつては、要するに資金問題と技術問題が殘るに過ぎぬ。

銑鋼兼業のものは不充分ながらも兼て備へて居るのであるが、現狀から考へると有無相通點が少いだけに合同に依つて直に製鐵業者が有利な状態で作業が出来るとは云へない。況んや工場の地位も離れ／＼となつて居るに於ておやである。現下の状態からすれば關稅に依りて製鐵を保護する事は機械工業其他の製造業を苦しむる結果ともなるのである。莫遮爰に臻ると日本製鋼所は石炭に於て夕張を控へ原鐵に於て俱知安、虻田の褐鐵鑛を有し挑沖李源の鑛石と混じて製鐵し居る如何に軍縮の影響ありとは言へ軍器の補充や新造もあり殊に日本製鋼所の特長とする十六吋砲其他兵器の製造を爲して居るのであるから本邦製鋼所中最も有利な立場にあるものと見て然るべきであらう。

○製鐵業行詰の日本

長谷川熊彦氏談

八幡製鐵所究所技師長谷川熊彦氏は砂鐵製錬研究の爲め昨年九月出發瑞典其

他の製鐵國を視察し過般歸朝せられました。

日本の前途は未だ／＼遼遠である、國民上下舉つて各其の道に大に努力奮發し獨創的進歩の向上をせねばならぬ、若し油斷をして些細な事に滯つて大局を下り坂に向けて行つたならば我國の前途は大に不安なものである、とは云ふものゝ私は外國に於て日本で想像した以上に日本人が向上心の強い清新激勵の銳氣に富んだ國民であると云ふ事を感じた、之は世界到る處で出會する日本人の旅行者に接したり、白人の多數に接したりして歸納したものである。日本人の多くが皆夫れ々社会國家の状態を論難し日本の事情を指摘するとか或は政府を難じ實業家を難じ政治家資本家を憤慨し技術家を貶し或は労働者或は農業乃至風俗習慣衣食住凡て日本の短所が眼に着き之を口に表して互に一寸の鬱を散すると云ふ有様は外國を旅行して居る多くの人々即ち大學教授からも新記聞記者からも其他多くの人から耳にする、而して其處に新しい改造氣分が蟠まつて居る。又一方から見れば之は外國の文化或は生活の美點を常に着眼し我々の短所が眼に着いて生ずる事大思想にも基いて居るが、多くの場合日本の状態は諸方面共に行詰つて居ると云ふ結果になる、曲りなりでも世界の強國と云ふ列に加へて何となく向ふ岸に着いた様なものゝ足並は不揃ひで疲れ、之れから一步伸びねばならぬと云ふ時に行く先が断崖となつて暗になつた洋上の船同様行詰まつて仕舞つたのである。歐米の旅をすると英米獨佛の強大國で制度文物技藝等がチヨイ／＼日本に似寄つた點ある事を見出され不思議に感する事が少くない。之れは先輩識者が苦心研究して各特點を日本に輸入し其れに依つて我々が恩恵に浴して居るからで

ある、製鐵製鋼などでも同様に感ずる、旅館や市街などは左程でないとしても、一度工場に入ると日本に歸つた氣持のする時が多い。

是は日本と同様であるからて有つて、其他の場合鐵道、郵便局、官廳、會社、商店等に於ても時々此感じのする事がある、併し是は多くは外形で有つて内容に到つては多くの場合日本が劣つて居る事を發見される。そして之れを進歩向上せしめねばならぬと云ふ所で行き詰まるのである。工業以外の諸方面でも少くとも歐米から直輸入した事柄は多くは行詰まつて居ると云つて差支ない。

其他衣食住などの生活改善とか物價問題など隨分日本は何處の方面に活路を見出すかと疑問である、從來吾國が長足の進歩發展をしたと云ふ事は戰爭の功勞もあるであらうが、兎に角各方面とも模倣的に邁進し直輸入品に研を掛けたので、短時日に塞麓迄達したが此上の一步は既往の百歩より困難多く進歩も向上も鈍い、其處に行詰まつたと云ふ嘆息が發せらるゝのである。歐米諸國でも模倣して居る事は明かであるが尙其處に強い自惚が有つてソワソワ性急に自己を棄て、他國の有様に早變りはしない。而して各自の本質を八合は握つて何とか理屈をつけて居る、日本が急轉直下一齊に歐米文物を形取つた様に一も二もなく模倣する雅量に乏しいので、日本の進歩を驚き恐れ且つ妬む様になる、私は此の所感を専門の立場から各國々に付て述べて見たい。

米國

何と云つても米國は恐るべき底力の強大な國である、アノ廣漠たる土地にまばらな人家が建てられ一時間五十哩上の

高速力を以て走る汽車でイリノイスやペンシルバニヤの平野が耕耘されてゐる様を見、又ロツキーハウスを走つて巨岸を破り高山の頂きを極むる工事の偉大なる、人間の力を以て斯く大きな底力を米國が所有して際限なき生長力を有する恐怖に打たるゝのである。米國最大の鐵礦産地であるミネソダ州の北方メサビレンジを六十哩餘り縱斷した時一ヶ年數百萬噸を産する鐵礦山がヤタラに散在し而も近々廿四五年以内の間に發展し今後新規の礦山も開發されつゝあると云ふ若やいだ状態に接すると幅員の廣大なる此國の製鐵業に驚かねばならぬ。含鐵分四十五%内外の如き品質の礦石も、一般に嫌はるゝ粉狀の礦石も、完全に利用する努力や、細心の注意や、世界無比の労銀の高い状態よりする困難を打破ると云ふ奮發心も、左程安價とならざる礦石を七百哩遠方のペンシルバニヤに運搬して使用する困難を打破する苦心も、舉つて米國一流の獨創的開發で有つて今日では大きな自惚と底力となつて居る。

ピツツバーグ市を見物すると市内外二十哩に散在する多數の大工場から吐き出す煤煙蒙々天に冲し、谷に籠り市街は毎日霧の如く霞の如く曇り一切の事物をドス黒く煙色に變ずる様は連日日本では想像し得なかつた、此煙の間に働き遊ぶ市民は都市の體裁だの空氣だの衛生だのは一切構ひなしの如く見ゆる、何でも働いて金儲けをし、カーネギーの二代目を夢想でもするのか、或は王侯の様にえらい生活をしたいと齶齶して競争するのか、自分の爲めに自分が働く、人の事など考へる暇があれば何か考案して金儲けをする、よい事ならド

シヽやつてのける、新式で有らうが舊式であらうが其麼事

は深く拘泥しない、と云つた様な風に職工も工場も會社も働いて居る。

るゝのである。

獨逸

其處に自信や自惚が崩す、御互の競争の爲めに出來た製品は安い莫大な數量となつて市場に出る、而して此大部分が國內の消費に向けらるゝと云ふ事に到つても亦米國の鐵工業が偶然に發達した者でない事が肯かれる。米國の多くの學者或は技術家は外國の鐵工業は勿論一般事業に關して智識極めて貧弱である、況して日本の事など敢て歯牙に掛けて居ない處に自分が世界第一の富國强大と云ふ底力を表すのではあるまいか、米國の某技術家の私に云ふたのに、日本の工場では給料や勞銀は安い、米國に比較すると三分の一、四分の一一位である、然し多くの場合に米國は使用人員の數少く能率よき爲め製產品は安價であると、此の勞銀の高い生活費の高い國で其の缺點を打破して東洋の極端な安價な給料勞銀國を顔色ながらしむる自惚は世界を呑んで掛ると云ふ意氣込である、昨年十一月頃には米國全體の熔鑄爐合計四百四十基中で作業して居るものは僅に二割に過ぎず、殘部は總倒の休業、職工は解雇となる、職員は首にする、失業問題は相當に八釜しいが、ドンヽ減員し給料を下げ作業を休み難局切抜け策に全力を注ぐ、其れが外國には構ひなしに本年の五月頃にはズット恢復して約五割の作業迄になつた、之れ國內の消費が盛んになつて來たからである、英國製鐵工業が今猶火の消えた有様に比較すると米國の底力の偉大な事を感ぜざるを得ない。鐵工業に限らず凡ての工業に眞剣の切れ味を表すと云ふ點に大

ザツバに世界第一を實現する處に米國魂の片影の一面が見らるゝのである。

此努力の内には各人の生活質素とか勤勉とか能率増進とか云ふ實質が含まれ、其威力は強大なものであるが元々獨逸國の工業は極新しく其天恵の乏しい間に苦心努力して大工業國を建設するに到つた獨創的進歩の經驗は今猶新しいものである、石炭缺乏の結果は褐炭利用急激に増加し、鐵鑄缺乏の結果は大戰以來の古鐵屑鐵を熔鑄爐に投入し、又内地の貧鑄石開発となつて居る、而して、高價（獨逸としては）なる外國石炭鐵鑄の輸入の一部を減じ或は電氣事業の普及を愈大ならしめんとするのである、從來科學の進歩せる事世界第一として自惚た國であるが、戰後の今日經濟不足の爲め充分なる研究不可能の様であるが、猶非常に多數の學者を有する獨逸は一大學問の權威で特に此の難局切抜けに必要な應用方面學問技術に至つては何の苦もない事で、一齊に潮の流るるが如く形は成立するのである。

第二の原動力とも云ふべきは馬克相場の下落である獨逸政

府は紙幣を濫發する爲め馬克相場は戦前の五十分の一、百分の一に低落する。此の爲め獨逸工場の製造費は外國貨に換算の極端に安價で外國輸出は自由自在、工場は註文引切なし全能力で急造するの繁榮となり、外國（殊に英國）の工場を休業せしむるに到る、此の有様では如何に原料不足でも勞銀騰貴するとも平氣に外國の工場を壓迫して活動し工場は迅速に恢復するのである、英國が馬克相場の下落を嫌ふも無理からぬ、假令原料は外國から購入するとも製品を外國に輸出するが故に工場主も労働者もホク／＼利益に潤ふ事になる、戦前にも獨逸の工場は凡て輸出品を主眼として働いて居る是が工業動員で組織的となり更に大輸出工業に變じては、英國工業界が顔色を失ふも當然である。併し此の工業威大が直接獨逸の國力を回復し得るか否やは疑問であるが、少くも間接に恢復しつゝある事は明かである、獨逸國內には食料品が乏しく工業原料品に乏しく外國の高價品を購入し生活し困難するも此兩者の事情を基礎として、鬱勃の氣が活くと云ふ場合には自然に大きな活動となり、外觀は疲弊して居ても内面は何等佛國も手の出様がないと云ふ状態である、恐るべきは獨逸の恢復である。

瑞　　典

瑞典國を旅行し詳細に視察すると世界中著名な田舎じみた感じがする、國の面積は約日本の總計と同等で人口は日本の十分の一、五百五十二萬人と云ふ有様、首府のストックホルム市などは別として田舎に行けば人口極めて稀薄で悠々逍遙する大骨格の國民が静かに働いて居る。歐洲の北方に國をな

し直接歐洲大陸諸國の問題に縁が遠いので割合に世間馴れせぬ田舎らしい所である、十九世紀の始め迄は世界第一の製鐵國で富國強兵を以て世界に鳴らした者である。現在でも產額こそ少けれど品質は世界無比に優秀なので自惚れて居る之は世界他に類なき純粹の鐵鑛と供給際限なき木炭とを有するが爲めである又次々と多くの學者技術家が輩出して自家獨特の改良進歩をなし今日の盛大となつて居る、原料を有するのみで國民に秀才もなく努力もなかつたならば十九世紀の上半を境として此國の工業は下り坂となり、今日の如く列國と比肩する實力は出來なかつたであらう。（假令原料鑛石を外國に輸出し得るとは云へ）水力電氣事業にしろ一般工業にしろ努力により進歩し努力により完成し今日の境に達した事を大に自負して居る、そして此特長に一層研ぎを掛けて他國から模倣されたり盜まれたりする事を大に警戒して居る、就中日本人をして居る、而して生産者は全世界を相手として大部分最も恐れて居る、輸出しつゝあるが爲め競争場裡に他國と肩を並べると云ふ自信と覺悟とは小國ではあるが米獨と同等である。殊に大戰中の成金國の一で田舎の資產家と同様に相當に上品に贅澤に暮し禮儀もあり徳義もあると云ふ有様である、ストライキ等は御定まりの流行ものであるが、隣國の露西亞からボルシエギキイーが侵入したにも拘らず、ストライキの條理も實行も結果も頗る合理的である。

英　　國

英國に於て最も痛切に感じた事が二つある、其の第一は石炭の豊富にして質佳良、採掘容易である事である、從つて價格も安く家庭と云はず工業界と云はず一般使用が非常に萬遍

なく行進つて居る。凡ての工業が石炭を使用して大規模に近代化するに到つては當然英國が最初に發達すべきものと了解せらるゝ、鐵道も汽船も勿論最も早く完備して世界に率先したのである、製鐵業も勿論此の石炭使用を完成して盛大となるのである。鐵鑛は昔から利用されたとは云へ石炭使用迄は微々として振はなかつた、戰前の盛大に際しては英國内使用の鐵鑛の總額中三分の一は外國より輸入するもので自國産は三分の一に過ぎなかつた、併し其の豊富な石炭と多年熟練せる技術とは世界の鐵鑛を集中して製鐵する實力を有するに到つて居るのである。第二に驚いた點は廣大なる植民地を世界到る所に所有し工業原料を取り食料を取り、製品を輸出し英國人に多くの職業を與え、生活を贅澤に安樂ならしめ彌やが上に富強ならしむる事は一見して驚き且羨望に堪えぬのである。

英國本土は我國總計の二分の一にも足らず人口とて遙に少い國で有り乍ら能く世人の知る如く大英帝國の版圖は全世界に渡り樞要の地を占め、其の國旗は日暮を見ずと云ふ有様、此の石炭の豊富と植民地の巨大なる事とは英國今日の大をなし英國の自負と唯我獨尊とを完成するに到つたものではあるまいか、勿論斯程の自尊を生ずる迄には世界に率先して刻苦奮勵した事は明かでシエフキールドを始め著名な製鐵地方は何れも老練な技術を有して、他國人が如何に精巧な機械を使用するとも其の妙技には及ばぬと云ふ一子相傳の奥義を極めて居る處敬服の至りである。而して工業の大敵獨逸と相対抗して世界の霸を争ふの有様である、獨逸の工業は元來英國を模倣したものであるけれども、獨特の進歩改善を遂げ今や

其の進歩は英國を凌駕せんとする状態に達し此處に大暗闘を生ずるものである。
現時の英國製鐵業は既に悲況の底を通過したとは云へ向上遲々として歩々しからず、漸く熔鑛爐九十基だけ作業するのみで總數の二割弱に過ぎない、然し陰忍自重して時期の到来を待ち孜々として整理し給料勞銀を遞減し原料燃料問題を考究し他日の雄飛を期して居る情態は大に吾人の學ばねばならぬ點である。

佛國

佛國人は古來獨創的天才を有するを以て世界に有名である十九世紀の後半製鐵の技術に革命的進歩の有つた頃は英國や獨逸と對抗して澤山の發明を完成し爾來引續き諸方面に涉つて、新機軸を出し天才振りを見せて居る、唯英獨の如く派手に大規模に輸出本位大資本大商業本位に發展すると云ふ風は乏しい、又自國に石炭の乏しいと云ふ事は此主義に不利の點が多い、然し大戰中軍需品に窮した爲め所謂工業動員の盛大に到つては獨逸、墺太利の製鋼力を割きて自國の勢力下に置き前產額銑鐵五百萬噸に達し偉大なる製鐵國である、大戰後の今日には獨逸、墺太利の製鋼力を割きて自國の勢力下に置き前述の如くローレン州の大鐵鑛、ザールの炭田を直接領有し其他ルクセンブルグ國、ボーランド國のオーバーシレシア、チエツク國のテッセン等は間接佛國の勢力に屬し、他國の資本家、技術家は此方面に手を延ばし大部分は佛國の工業と見做し得る有様である、從つて戰前墺太利に屬した製鐵業の中堅は佛國に移つた有様である、此後最も有效に發展し得るものとせば佛國は米英に次ぐ製鐵國と化すべき筈である、佛國製鐵

業が獨逸の其れと對抗して此後如何になるかは別問題として其の狀況等は佛國特有とせらるべきものである。

總括

以上列舉した事實を總括して云へば各國は其れ／＼特殊の事情の下に發展進歩し各自の奮勵努力を主とし外國の模倣は極少部分にて夫々強い自負心を有して居る。

之れに反して既往の日本は遺憾ながら模倣本位として來たもので自信も自負も、自惚れもない、悲觀したり、狂喜したり感情的に動くと云ふ有様である事は急激で有つても難局に當り忍耐努力しジリジリ恢復する力に乏しい、既往は急速の進歩をなし兎に角形を作る爲め最良の策として此法を取つたのであるが、今や其の方法は行詰まるに到つた、先輩國は最早今日の日本を一つの競爭國として見るから技術の開放を承諾しない、其處で我々は苦心奮發して此後自己の天地を自ら開發せねばならない、大戰後我國民の生活は著しく向上して居るが猶ほ歐米諸國に比すると衣食住又は所謂娛樂等は頗る幼稚である、そこで歐米を見たものは勿論、見ないでも大都會の住民の多くは歐米人に近い向上せる生活を味はふ事を望むが之れ日本人の缺點で有つて盲目的全くの濫費である、而しても互に苦しい生活を續けねばならない、我等の日常生活の能率を、モット挙ぐる道はあるまいか、獨逸が困苦隱忍する様に、ち互の生活が鞏固となる迄は、此一個人と同様に工場の能率を挙げて行かねばならない、是れ我國刻下の最大急務であると信する、製鐵製鋼問題に有つても原料の有無如何とか賃銀騰貴とかの點よりも最大急務は工場を整理し能率を合理的に増すと云ふ事が重大である、そして此の能率

を増す事は如何にしても議論によらず、實行に俟たねばならない、即ちいと信じた事を實行する努力である、政府と民間の經營者と技術者勞働者を問はず、各方面各自が其の持前の仕事に能率を擧ぐる爲め、骨を折ると云ふ事に外ならぬ。行詰つた現狀から一步踏み出すためには他人の様子を見て模倣すると云ふより自ら苦心發奮すると云ふ風に進むの外はないと信ずるものである。（完）

●能率增進工業振興策 戰後世界工業界は一時不振

に陥つたが米國は此の挽回策に専ら心を注ぎ各國も米國に負けまいと競ひはじめた我國が此點に於て各國に劣るのは甚だ遺憾である、因て一新生面を開き海外に販路の擴張を計らうとするには、先づ一般の能率を増進せしむるより外に途はないと云ふので、曩に東京、大阪、神戸、名古屋等の各地で能率增進研究會を開き協調會でも機關雜誌の設備をし尙今回農商務省内工業局では從來の勞働課が新社會局の手に移つて行つた、其跡へ能率增進課を新しく設け前工場課長膳桂之助氏が課長になつて指導研究に務めてゐる、最近に於て國際勞働事務局が各國石炭坑夫一日當りの採掘能率を一千九百一年から、二十一年の二十一ヶ年間に亘り調査した平均能率に依るところ、第一位は米國で三噸八一、濠洲が次位を占めて三噸六七、次いで英國の一噸三九、獨逸の一噸二六、澳國一噸〇八、佛國一噸〇四、白國〇噸八一を示し、日本は僅かに〇噸七六と言ふ劣等に在る、無論これは器械應用の差などもあり地質や坑道の工合炭質の關係等もあり是等諸項を充分に調査した上でなくては實際の比例は取れない、何れにしても外國に比し

て劣つてゐるのは事實である、右について膳課長は語る。『第一に手をつけたいと思つてゐるのは、工場能率の増進であるが、之れは一面個性能率の調査と一面器械能率調査に向つて發足したいと思つてゐる、外國殊に米國では工業器械の統一がキチンと出來、工業規格統一委員會と云ふものを設けて充分研究してゐる、元來我國では凡ての器具器械が種々雜多で統一がない、隨つて能率と言ふ方面に於て之を計る事すら至難である、外國では器械を二三種の一定の型にはめて増進を計つてゐる。我國でも今後出来る丈けそれらの器械統一を計らねばならぬ、此の意味に於て從來の尺貫法もメートル、ボンド法に改正したのであるが、尙凡ての方面に於て漸次研究の結果改正すべき事實も多く現はれる事であらう、尙個性能率に於ては外國人に於て日本人を凌ぐ點及び日本人に於て外人を凌ぐ點も多くある、例へば造船業に於てハンマーを揮ふが如き到底日本人の比ではない、併し加州に於ける葡萄モギの仕事の如きは外人が日本人に及ばない、凡て日本人は手先の仕事に巧妙を持つてゐる、この點なども研究の上適材適所と言ふ意味を充分に實行する事が出來たら能率増進の本領にも叶ひ又最も緊要な事であらうと思ふ』云々。

●工業品の規格統一（工業品規格統一調査會の事業）

一 沿 葦

工業品の規格統一は最も重要な工業政策の一であつて製品の形狀、寸法を統一して大量生産の實を得させ、其の生産費を低減し且つ製品の交換性を増加する事は、工業上非常に必要なる施設であると考へられる。歐米諸國では以前から、此規格統一に關して着眼して居る所があつた。即ち英國には一九〇一年に英國工業品規格統一協會の設立を見、米國にては一九一七年

常設委員會、獨國に於ては一九一七年に獨逸工業品規格統一委員會が設立せられ、皆標準規格の制定に向て非常なる努力をして居る。

我國に於ける規格統一調査機關の實施は大正八年六月に設置された度量衡及工業品規格統一調査會を其の基団となし、翌年六月に同會が答申に於て工業品中規格統一を必要とする品種を列舉し、且つ此の統一の實行に就て、政府は常設機關を設置すべき旨を農商務大臣に答へた。而して現在の工業品規格統一調査會は、此の答申に基きて大正十年四月に設立せられたるものであつて七十名の委員と若干名の臨時委員（現在は六名）に於て、専ら規格統一に關する調査をなし、其標準規格の制定中である。

二 工業品規格統一事業の前驅

本邦に於ける規格統一事業は、之等の調査會の設立以前に於ても多少の施設があつた。其の主なるものを次に挙げて見よう。

一、ポートランド、セメント 明治三十八年に官廳で購入するポートランド、セメントの試験法を統一するため、官民合同で調査をし之れを公表した。其後二回の部分的改正があつたが、此の試験法は汎く一般に於て使用せられて居る。此の試験法では品質規格と試験品、試験方法が規定せられて居るのである。

二、電氣機械器具及材料 日本電氣工藝委員會は明治四十三年に萬國聯合電氣工藝委員會に加入して、電氣機械器具の名稱レーチング等を始めとして、種々の電氣用規格の研究制定をして居る。

三、水道鐵管 大正四年上水協議會は工學會に委嘱して陸海軍、内務、農商務の四省、鐵道院、工科大學、東京市等から委員十二名が調査をして水道鐵管の標準仕様書を選んだ今日此の仕様書は主なる都市の水道課で採用して居る。

四、鋼の材質の寸法 大正五年製鐵調查會は製鐵業の發達のためには鋼質規格、鋼質試験法、鋼材の寸法等を統一する事が甚だ緊要なりと認めて、之が調査をして其の成案を答申した。

五、標準船型 大正七年遞信省では船型統一の必要を考へて、委員會を設け各種の船型について其の標準を定めた。

此の他に學會等で標準規格の研究をして居るものも少なく無いと思はれる。又前に述べた五種の中でも、或るものは殆ど日本全體に廣く用ひられて居り、或るものは未だ餘り使用されないものもあるが、兎も角之等は現在の規格統一調査會の

前驅であるといふ事が出来る。

三 工業品規格統一調査會の概要

工業品規格統一調査會は大正十年四月に勅令にて其の設立を見同年九月委員七名の任命があつた、此の調査會の官制の主なる條項は次の通りである。

第一條 工業品規格統一調査會は農商務大臣の監督に屬し工業品の規格統一に關する事項を調査審議す。

第二條 調査會は關係各大臣の諮詢に應じ意見を開申す調査會は關係各大臣に建議することを得。

第三條 調査會は會長一人副會長一人及委員七十人以内を以て之を組織す。

前項定員の外必要ある場合に於ては隨時委員を置くことを得。

第四條 會長は農商務大臣を以て之に充つ。

副會長、委員及臨時委員は農商務大臣の奏請に依り關係各廳高等官及學識經驗ある者の中より内閣に於て之を命す。

(以下略す)

今各部及び特別委員會の類別を擧ぐれば次の如きものである。

第一部 金屬材料

部長 東京帝國大學教授工學博士(造船)

副部長 工學博士(採鑄冶金)

甲、專屬委員

乙、他部委員にして兼任の者

第一特別委員會 壓延鋼材の品質形狀寸法

委員 一八名

第二特別委員會 非鐵金屬の品質形狀寸法

委員 七名

第三特別委員會 試驗片及試驗法

委員 一〇名

第四 鍛鋼品

部長 陸軍中將

副部長 東京帝國大學教授工學博士(建築)

委員 一五名

乙、他部委員にして兼任の者

第一特別委員會 木材

委員 一三名

第二特別委員會 煉瓦

第二部 電氣機械器具

部長 前東京電燈株式會社専務取締役工學博士(電氣) 中原岩三郎

副部長 遠信技師工學博士(電氣) 澄澤元治

甲、專屬委員 一四名 八名

乙、他部委員にして兼任の者 一四名 八名

第一特別委員會 電線の寸法及稱呼 委員 五名

第二特別委員會 電球の承口のネジの寸法 委員 五名

第三特別委員會 小型三相誘導電動機の電壓迴轉 數出力稱呼及調車の直徑 委員 八名

第四部 一般機械器具 部長 東京帝國大學教授工學博士(機械) 井口在屋

副部長 東京帝國大學教授工學博士男爵(機械) 斯波忠三郎 二〇名

甲、專屬委員 三名

乙、他部委員にして兼任の者 三名

第一特別委員會 螺絲ボルト、ナット、スパンナー 委員 一〇名

第二特別委員會 ブルヴ、コック 委員 一二名

四 工業品規格統一調査會の經過

本調査會が大正十年十月三日第一回の總會を開催し、委員を四部に分ち更に其中に十一の委員會を設けて以來標準規格調査のため、各部に於て部會及委員會を開催したる事十一回乃至二十回に及び、其の總計は七十八回に達した。之等の特別委員會に於ての調査の進行程度を大體に述べて見よう。

第一部 金屬材料

第一部に於ては二回の部會と二十六回(卅二日)の委員會とを開催し壓延鋼材、鐵鋼以外の金屬材料、試驗片及試驗法、鍛鑄鋼、鍊鑄に關して調査審議をし

第一部第一委員會 壓延鋼材

本委員會に於ては先づ小委員を選び、小委員會に於ては八回の會議をした。最初は橋梁及建築用鋼材規格を作成することに決し、先づ米國の規格を研究し、次で英國規格を標準として審議をなし、其の種別、製造法、各種試驗方法、検査等に關する規格を作り、數回の會議を經て一應審議を了したが、尙決定迄に

は一、二回の會議を必要とする。次に造船用鋼材其他の品質規格に就て審議し更に進で各種鋼材の寸法を統一する事に付て調査する筈である。

同第二委員會 鐵鋼以外の金屬材料

本委員會に於ては五回の會議を開催した。最初は地金合金類の稱呼を統一し、次には其の規格を統一する必要ある事を認めて、先づ合金類及銅地金に對する稱呼を決定し、目下は各國に於ける地金の現行規格に關する資料を蒐集中である。

又本委員會は非鐵金屬の板材抗張試驗片の規格に關して研究し、其實行上の難易をも充分調査した上、之を試驗片に關する委員會に報告した。

同第三委員會 試驗片及試驗法

本委員會に於ては一月十三日第一回を開催し、以來七回の會議を重ねた。最初は鋼材の抗張試驗片の形狀に關して研究の結果、大體英國規格に據り、實行上の難易等をも充分研究した上、標準試驗片の規格案を議了した。

同第四委員會 鐵鑄鋼

本委員會に於ては二月十五日第一回を開催し、以來六回の會議を重ねて、鑄鋼尙非鐵金屬の板材試驗片に關しては第二委員會に委嘱し、其報告によりて之を前述の規格案に追加し、金屬材料標準抗張試驗片の仕様書を作成して、關係官廳、學會、製造者等五十五箇所の意見を求めた上、大體に於て異議なき事を認めて假決議案とし部會に提出して、決定し更に總會に於て假決定となつた。(別項決定事項參照)

第二部 金屬以外の材料

本委員會に於ては二月十五日第一回を開催し、以來六回の會議を重ねて、鑄鋼品及び鍛鋼品に就き研究し、其の種別、製造法、各種試驗方法及検査其他に關した事項を議了して、鑄鋼品規格と鍛鋼品規格を決定した。又鍊鐵に關しては「本邦に於て產出せざること」と「其用途が局限せらるること」との理由によつて、規格統一の必要なものと認定した目下は水道鐵管、鑄物用銑鐵、彈機鋼等に關して資料を蒐集中である。

第二部 第一委員會 木材

本委員會に於ては七回の會議を開催し、建築材料聯合調查會にて既に調査した木材規格に就きて研究し、其の稱呼、寸法、品等、材積計算法及檢尺法其他に

關する事項を大體決定して、目下は寸法の中の「長さ」品等中の「節及其他の缺點」の二項に就きて審議中である。

同第二委員會 煉瓦

本委員會に於ては四回會議を開催し建築材料聯合調查會が調査をなしたる煉瓦規格に就きて研究をなし、其の種類と寸法等を決定した。又品等に就ては全國の主なる製造工場から試驗品を蒐集し、周密なる試験を行ひ、其の成績によりて之を決定することとし目下は其の試験中である。

尙一方では耐火煉瓦に關する資料をも蒐集中である。

第三部 電氣機械及器具

第三部に於ては二回の部會と十六回の委員會とを開催し、電線電球の承口、小型三相誘導電動機に關して調査審議をして居る。

第三部第一委員會 針金及薄板

本委員會に於ては四回會議を開催し、日本電氣工藝委員會の調査した電線標準(單線)を基として其の太さと稱呼に關し一應審議を終了した(撲線は未了)又其の實行上の難易に就いても研究をなし、薄板にも此規格を使用するために第一部の意見をも加へた上針金薄板の寸法及稱呼の規格を作り部會に提出して決定され、更に總會にて假決定となつた(別項決定事項參照)

同第二委員會 電球の承口

本委員會に於ては二回會議を開催して、日本電氣工藝委員會及照明學會の聯合調査に係かる電球標準仕様書に就て承口の寸法を研究し、該寸法は内地は勿論英米標準型に融通して使用しても、大なる支障なきものと認めて、之を採用することに決定した。但し其の寸法に疑問の點があつて目下之れを調査中である。

同第三委員會 小型三相誘導電動機

本委員會に於ては十回會議を開催し、英米獨及我國の主なる電氣機械製作所に於ての現行の標準型、其他に就きて研究を重ね、小型三相誘導電動機の標準出力、周波數、迴轉數、調車の直徑及幅を決定した。目下は調車取付部の寸法に就て研究中である。

第四部 一般機械及器具

第四部に於ては二回の部會と二十回の委員會とを開催して、螺絲、ヅルヴ、コツクに就て調査をして居る。

第四部第一委員會 螺絲

本委員會に於ては九回の委員會、五回の小委員會を開催した、最初に一般機械と構造用螺絲の型式及寸法を制定することゝし、七回の委員會を開けて審議を重ねたが、標準螺絲の選定は事態重大であつて委員の意見も容易に一致せず結局之に就ては陸海軍及鐵道省其他民間工場に於て、ホキットウォース(英)式セラース(米)式、及米突式螺絲に就きて實地に螺絲を切る試験を行ひ、此試験完了を待ち更に審議を續行することに決定して、目下は此の試験を行つて居る、一般機械及構造用螺絲の研究は一時中止の有様にあるを以て、此際は一般螺絲の次に審議すべき、小型螺絲に就いて研究をすれば、一般螺絲の標準型を定めるための参考資料になる可しと考へ、小型螺絲を審議することゝして小委員會を設けた、此の小委員會に於ては最初航空機と自動車とに用ふる小型螺絲に就きて審議し、英式、米式、米突式に付て其の長短を論じ、結局米突式である佛國工業獎勵協會(Société Encouragement pour Industrie Nationale)が一九一九年に規定したものを骨子として標準螺絲を定め、委員會に提出して審議した上、之を假決定にした。次には電氣機械、器具及計器類用の小型螺絲に就きて審議する積りである。

同第二委員會 プルヴ、コツク

本委員會に於ては四月十四日第一回を開催した、以來委員會を一回小委員會を三回開いて研究をして居る。最初は球狀瓣の形狀及寸法を審議することゝし、其の用途壓力等を定めて、細目に就ては小委員會の研究に委せる事とした。小委員會に於ては最初に蒸氣用の球狀瓣の接手内徑の種類を決定し、之れを鍔接手型と捻込型との二種に分ち、兩者の形狀と寸法に關する仕様書を作成中である。

五 決定事項

去る十月十九日の本調查會總會に就て決定した標準規格は次の二種である。

イ、針金、薄板の寸法及稱呼

本規格は主として第三部の調査に係り、第一部の承認を経て總會に提出せられたものである。しかし總會席上で審議の際、第四部委員から更に之れを第四部にて研究し、此の新しい針金の寸法が、細物螺子用として差支無きや否やを調査し度との希望が出た、從て總會に於ては假決定と成り、第四部にて研究の上異議なしと認めたら別に總會に提出せずに直に決定と認められる事となつた、次に掲ぐ

るは假決定になつた標準規格である。

針金薄板の寸法及稱呼

針金薄板の寸法及稱呼は左の如く規定するものとす。

一、針金薄板の寸法及稱呼は其直徑又は厚さを「ミリメートル」にて表し番號を併用せざるものとす。
二、針金薄板の寸法は最大を一二「ミリメートル」最小を〇・一「ミリメートル」とし次表に示す如く四十二種に區別す、

メル リト ミー	12.00 10.00 9.00	8.00 7.00 6.50	6.00 5.50 5.00	4.50 4.00 3.50	3.20 2.90 2.60	2.30 2.00 1.80	2.00 1.60 1.40
メル リト ミー	1.20 1.00 0.90	0.80 0.70 0.55	0.60 0.55 0.50	0.45 0.40 0.35	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	1.00 0.90 0.80	0.70 0.55 0.50	0.60 0.55 0.50	0.45 0.40 0.35	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.90 0.80 0.70	0.55 0.50 0.45	0.60 0.55 0.50	0.45 0.40 0.35	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.80 0.70 0.60	0.55 0.50 0.45	0.60 0.55 0.50	0.45 0.40 0.35	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.70 0.60 0.50	0.55 0.50 0.45	0.60 0.55 0.50	0.45 0.40 0.35	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.60 0.50 0.45	0.50 0.45 0.40	0.55 0.50 0.45	0.45 0.40 0.35	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.50 0.45 0.40	0.45 0.40 0.35	0.50 0.45 0.40	0.40 0.35 0.30	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.45 0.40 0.35	0.40 0.35 0.30	0.45 0.40 0.35	0.35 0.30 0.25	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.40 0.35 0.30	0.35 0.30 0.25	0.40 0.35 0.30	0.30 0.25 0.20	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.35 0.30 0.25	0.30 0.25 0.20	0.35 0.30 0.25	0.25 0.20 0.15	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.30 0.25 0.20	0.25 0.20 0.15	0.30 0.25 0.20	0.20 0.15 0.10	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.25 0.20 0.15	0.20 0.15 0.10	0.25 0.20 0.15	0.15 0.10 0.05	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.20 0.15 0.10	0.15 0.10 0.05	0.20 0.15 0.10	0.10 0.05 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.15 0.10 0.05	0.10 0.05 0.00	0.15 0.10 0.05	0.05 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.10 0.05 0.00	0.05 0.00 0.00	0.10 0.05 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.05 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.05 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト ミー	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.32 0.29 0.26	0.23 0.20 0.18	0.16 0.12 0.10
メル リト<br							

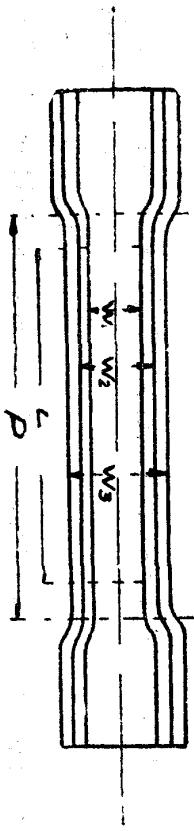
呼には番號を使用せざりしこと

寸法比較表

試験片の標準規格は主として第一部で研究し、之れに各部より代表委員が參加して作成したものである。此の規格は總會提出に先立て、關係の各官廳、學會、製造者五十五個所へ照會した意見を求め、大體に於て異議なしと回答を得たが、或る學會よりは更に研究して見度いとの希望があつたため、之れを尊重して總會では假決定とし、若し其の學會が研究の上、異議なしと認めたら、別に總會を開かず直に決定と認める事となつた、其の標準規格は次の通りである。

金屬材料
標準抗張試驗片

第三號試驗片



標點距離 $L_1 = 200$ 粕
平行部の長 $P = \text{約}220$ 粕

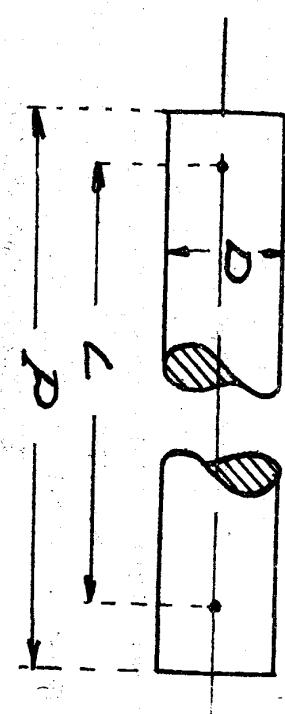
標點距離 L_1 は直徑 (又は對邊距離) D の 4 倍
又兩端を太くするものにありては平行部の長 P は D の約 4.5 倍なるを要す。

第四號試驗片

試驗片の厚(糸毛)	幅(糸)
23 を超ゆるもの	$W_1 = 40$ 以下
9 以上 23 以下	$W_2 = 50$ 以下
9 未満 滿	$W_3 = 60$ 以下



第二號試驗片



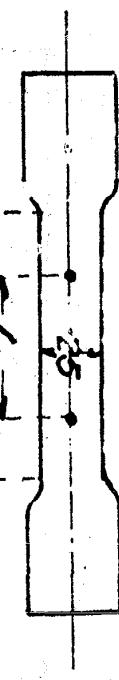
標點距離 $L_1 = 50$ 粕
平行部の長 $P = \text{約}60$ 粕
直 徑 $D = 14$ 粕

標點距離 L_1 は直徑 (又は對邊距離) D の 8 倍又は兩端を太くするものにありては平行部の長 P は D の約 9 倍なるを要す。

(直徑 (又は對邊距離) 25 粕を超ゆる試驗片)
本試驗片の断面は圓形なるを要す材料の都合に依り上記の寸法に依ること能はざる時は下式により標點距離を定むることを得

$$\text{標點距離 } L_1 = 4\sqrt{A} \text{ 但し } A \text{ は試驗片の断面積}$$

第五號試験片



以上二種の標準規格が皆メートル法に依つたのは、我が度量衡法が本年四月に改正せられて、メートル法を採用することになった爲である。又之れ等の規格を公式に發表せらるる際には、其の字句などが多少修正される事もあるだらうと考へられる。

六、歐米に於ける主なる規格統一機關

歐米に於て規格統一に關する調査會、協會等について今日吾人の耳に達して居るのは十三國である次に其の國名と團體との名を擧げて見よう。

奧地利國 Oesterreichischen Normenausschusses für Industrie und Gewerbe.
白耳義國 Association Belge de Standardisation.

加奈陀國 Canadian Engineering Standards Association.
佛蘭西國 Commission Permanente de Standardisation.

獨逸國 Normenausschuss der Deutschen Industrie.
英吉利國 British Engineering Standards Association.

和蘭國 Hoof commissie voor de Normalisatie.
伊太利國 Comitato Generale per l'Umificazione.

諾威國 Norges Industriforbund Standards Com.

瑞典國 Sveriges Maskinindustriforening Standardiseringskommitten.
瑞西國 Bureau des Normes du V. S. M.

北米合衆國 American Engineering Standards Committee.
チニック、スロバーキヤ國 (名不明)

之等の中の主なるの三四を擧げ其の組織と今日迄の仕事を簡単に記して見れば英國工業品規格統一協會

本協會は一九〇一年設立の英國工業品規格統一委員會を繼承したもので、規格統一の機關として最も永き歴史を有するものである。其の委員は各種の工業學會、協會、工業會社、工場、官廳等各方面より選出せられたるもので、其の數は一千七百名に及び、本部の下には三百八十四の都會、分科會、小委員會がある。今日迄に制定した標準價格は三百十餘件に達し日下研究中のものも百八十餘件ある。

本試験片は主として管類並に非鐵金屬（又は其合金）板材の抗張試験に用ふ
合にも用ふることを得

三、第三號試験片
本試験片は壓延せるまゝの棒鋼の抗張試験に用ふ（但し旋削する場合にも用ふることを得）

四、第二號試験片
本試験片は主として壓延せるまゝの棒鋼の抗張試験に用ふ（但し旋削する場合にも用ふることを得）

五、第一號試験片
本試験片は主として板鋼、平鋼、形鋼の抗張試験に用ふ。

六、第五號試験片
本試験片は主として管類並に非鐵金屬（又は其合金）板材の抗張試験に用ふ

米國工業品規格統一委員會

本委員會は一九一七年に種々の、工業學協會が其の會員となつて成立したもので、會員團體二十個の他に代表者を出して居る官廳、工業團體二十八個と、之れに協同して居る學會協會工業會社等が百八十個ある。此の委員會は其の設立が新らいため、既に標準規格の研究について、各學會、協會等で着手して居るもののが數くないため、本會では各團體が提出して來る標準規格案を研究承認するのを主なる仕事として居る。今迄に斯くして承認した規格は十八件になる。

佛國規格統一常設委員會

本會は一九一八年に佛國大統領令に依つて設置されたもので、幹部は陸軍、海軍、商務、軍需、工事等の九省から一名宛と學士院、其の他の學會、協會からの代表十名と合計十九名にて組織し、委員長以下二百數十名の委員が居て常設委員會を造り、尙此の下に金屬製品規格委員會と、建築用材料規格委員會の二委員會が附屬し、之れに對して七十餘名の委員が居る。今日迄常設委員會で承認した標準規格は五十六件を算して居る。

獨逸工業品規格統一委員會

本會は一九一七年獨逸工業會が戰後の獨逸工業を復活するには、是非共規格統一によらねばならぬ事を高唱した結果成立したものである。會員は工學會、工業團體政府の關係部局及諸工場の代表者等七百名を算し、既に二百三十九件の標準規格が定められた。

(終)

○田中不二君の訃 故本會前評議員工學博士田中不二

君は實に我國應用力學の權威者なり、明治三十四年東京帝國大學工科大學機械科卒業、同四十一年歐米に留學、同四十四年歸朝の上、東京帝國大學教授に任せられ、爾來引續き同工學部に於ける講座を擔當せられたる外、公私の育英に從事せられ、他方には學術の研究に没頭し數十の論文を工科大學紀要、機械學會誌等にて發表せらる。本會創立以來の會員にして評議員として本會發展の爲に盡力せられたること極めて多く、去る十一月十八日病を以て逝去せられる痛惜の至りなり。

○盧森堡大公國經濟近況 在アルベルス領事 岸倉松



故 中 二 不 田

戰後に於ける盧森堡國經濟界は國際政局の不安定爲替相場の激變世界的商況不振等に依る近隣市場閉塞の爲甚しき不況を見其輸出貿易は現在に於ても未だ戰前の半を超へざる悲況に在り。

從前盧森堡は獨逸市場に隨伴し商業中心は獨逸のトレベスに在り、盧國商人は日々日用品を同市にて仕入れ大戰中も亦均しく獨逸市場と密接の關係に在りしが一九一八年十一月聯合側大勝の下に、休戰條約成立するや形勢茲に一變して不安動搖の深底に陥れり。

休戰は先づ七十六年間獨逸聯邦諸國と共に加入し居たる關稅同盟を終了せしめ其貸借計算表の調製決済を急務とし獨逸を捨て佛國方面に接近の問題を生じ其國將來の盛衰に齋す結果如何に就き國論一致を見るに至らざりし間は盧森堡國は經濟的に孤立し世界市場と離れ一般經濟財政は愈々困窮に陥れ

り。

盧森堡國は關稅障壁を以て保護せらるゝ隣邦三國の間に介在する袋地にして外國品は無稅にて輸入するに反し盧國製品は到處に於て關稅の障壁に衝突し爲に國內消費者は多少の利益を享けたるも國內工業は外國との競争に對し何等の保護を受くることなく其經營に甚しき困難を感じたりしが、一九年八月末初て關稅制度の設定を見たりと雖其稅率は主として財政的見地より定められたるものにして輸入稅は燃料鑛物鹽コーヒー煙草麥酒葡萄等漸く十八種に限られ所謂製造品は依然として無稅輸入の利益を享け居たり、而して右稅率は一九二一年八月一日迄實施せられたるが、白耳義との關稅同盟成立に先ち盧國政府は白耳義關稅率を其增率を輕減して採用し、次で一九二二年五月一日白國との關稅同盟實施せらるゝに及び休戰以來の窮状を脱し盧國工業は漸く生存の途を求め得るに至れり。

元來盧國は輸出を主眼とする製鐵鋼業を以て立國の基礎とするに拘らず、大戰以來地理的接續に基く市場の仲介、地質の不同に依る物質の交換勞働の需給等は根柢より破壊せられ各國の採れる保護政策及爲替相場の激變世界的商況の不振等は國際通商を阻害すること甚しく殊に佛國は急に輸入稅を引上げたる爲同國破壞地方恢復事業に對し多大の供給を爲し得べかりし當國鐵鋼品に充分輸出を見るに至らず又從來最密接の關係に在りし獨逸と分離するに至りしは甚しく苦痛とする所なりしがヴェルサイユ條約第二六八條(ハ)に依り盧國に原產し且同國より輸入する天產物及製造品は五年間獨逸關稅地域内輸入無稅と爲りし爲頗る優勝なる地歩を占むるに至り、

右制度は一九二〇年九月十五日より實施せられ爾來相當の輸出を見るも獨逸馬克相場の暴落に依り盧國工業は豫期の如き利益に浴すること能はざる憾みあるものゝ如し。國際政局の不安定爲替相場の變動燃料の缺乏糧食の不足貨銀の騰貴其他外國取引に對する各種障礙の續く間は一般經濟界は蓋し不況を免れざるべきも盧國は現に密接の關係を有する近隣諸邦の外國爲替相場の安定せる和蘭瑞西英國殊に遠く土耳其南米印度、其他にも將來其市場を開拓する方針なりと云ふ。

鐵鋼業 鐵鋼業は鐵鑛及骸炭の供給容易且安價なるを以て盧國工業中の主位を占むる重要產業なるが大戰前後の狀況を通觀するに是亦不況を免れざりき、即ち戰時中に於て運輸は軍隊交通の爲停止せられ燃料の供給は斷絶し諸工場は其工程を緩め停業の危險を傳へ事態の恢復は一に燃料に在り長月の間喜憂は一に該問題に懸れるが休戰以來聯合側に就て燃料の分配を受くるに至りしより盧國も亦佛國より若干の讓渡を受け一九一九年一月に至り鐵工場も再開の機運に進み漸次作業を始めたるも佛白方面に於ける破損建造物の再建多からざる爲鐵鋼の需要も著しからざりしが、一九一九年秋に至り其破損建造物恢復事業大に進み鐵鋼の需要を鼓舞し同市場は急に活氣を呈し鐵鋼工場は月五萬噸の石炭の供給を受くるに過ぎりし爲其產額は以て需要を満すに足らざるの盛況を見たり一九二〇年八月以降スバー會議の決議に依り月十萬噸の石炭の供給を受くるに至り燃料問題は漸く緩和せられたるも鐵鋼値段は頓當鐵五百五十法、鋼七百五十法てふ暴値を唱へ戰前の約十倍、一九一九年の約倍に昇騰せる爲市場再び沈衰し一九

二一年末迄不況打續きたり。

次に大戰前後に於ける盧國鐵鋼業を計數的に觀察するに戰前一九一三年に於ては熔鑄爐四十五基其產額銑鐵二百五十四萬噸、生鋼百十八萬噸、計三百七十三萬噸を超へ大戰の勃發と共に多少其產額を減じたるも、一九一六年に於ては猶三百萬噸を下らず交戰國の如く甚しき影響を受くることなかりしが休戦と爲るや頓に其產額を減じ一九一九年に於ては百萬噸を下り戰前の四分の一に減じ爾來漸次恢復の途に在るも現に作業中の熔鑄爐は二十三基にして其產額も亦未だ戰前の半に達せざること左表の示すが如し。

最近數年間盧國鐵鋼產高表(單位噸)

年 次	熔鑄爐數	銑 鐵	生 鋼	鑄 物
一九一三	四五	三、五七、六六	一、八三、三七	六、五三
一四	四七	一、八二、二〇	一、三六、四六	三、三七
一五	四七	一、九三、七三	一、三六、四六	二、九〇、六四
一六	四七	一、九三〇、五二四	一、三六、四七	二、八〇、六四
一七	四七	一、五三八、八三五	一、三六、四七	二、七〇、六四
一八	四七	一、五三六、七七三	一、三六、四七	二、六〇、六四
一九	四七	一、五三六、六二一	一、三六、四七	二、五〇、六四
二〇	四七	一、五三六、六二一	一、三六、四七	二、四〇、六四
二一	四七(現に作業中) のもの二三)	一、五三六、六二一	一、三六、四七	二、三〇、六四

盧國鐵鋼業を製鐵製鋼伸鋼及精練の四種に分ち之を詳述し當國鐵鋼業の大體を知るに便せんとす。

製 鐵

熔鑄爐 四七 (現に作業中のもの二三)

從業者數 三三三七 紙料支拂高

鑄石消費高

內 國 品

二〇、二四三、五六六

二五六一、三六八

雜 錄

外 國 品

四八〇、〇六七
一、一九九、九六七

骸炭消費高

七九、二二三

二一、二八三、七四六

八九〇、四三八

トーマス鐵

六七五

精 鐵

九七〇、三三六

計

二三九、二五七、三二四

最近數年間銑鐵產出高

一九一三 二、五四七、八六一

一九一四 一、八二七、二七〇

一九一五 一、五九〇、七七三

一九一六 一、九五〇、五一四

一九一七 一、五二八、八六五

一九一八 一、二六六、六七一

一九一九 一、五九〇、九三五

一九二〇 一、九七〇、三三六

一九二一 一、三九、二五七、三二四

一九二二 一、九七〇、三三六

一九二三 一、九七〇、三三六

一九二四 一、九七〇、三三六

一九二五 一、九七〇、三三六

一九二六 一、九七〇、三三六

一九二七 一、九七〇、三三六

一九二八 一、九七〇、三三六

一九二九 一、九七〇、三三六

一九三〇 一、九七〇、三三六

一九三一 一、九七〇、三三六

一九三二 一、九七〇、三三六

一九三三 一、九七〇、三三六

一九三四 一、九七〇、三三六

一九三五 一、九七〇、三三六

一九三六 一、九七〇、三三六

一九三七 一、九七〇、三三六

一九三八 一、九七〇、三三六

一九三九 一、九七〇、三三六

一九四〇 一、九七〇、三三六

一九四一 一、九七〇、三三六

一九四二 一、九七〇、三三六

一九四三 一、九七〇、三三六

一九四四 一、九七〇、三三六

一九四五 一、九七〇、三三六

一九四六 一、九七〇、三三六

一九四七 一、九七〇、三三六

一九四八 一、九七〇、三三六

一九四九 一、九七〇、三三六

一九五〇 一、九七〇、三三六

一九五一 一、九七〇、三三六

法

嶠當

六四

一〇五、五四

一五一、七三

二〇一、一〇

二五五、六九

三八二、一〇九、六〇一

二五四、五九〇、三九六

一五七、八七〇、七八二

二〇五、七九四、一四二

二三一、八四五、〇五五

二五四、五九〇、三九六

一一三、八九二、一八三

一一三、一七〇、一六一

一四一、八二七、二七〇

一五九〇、七七三

一六三、三五九、一六一

一九一三

一九一四

一九一五

一九一六

一九一七

一九一八

一九一九

一九二〇

一九二一

一九二二

一九二三

一九二四

一九二五

一九二六

一九二七

一九二八

一九二九

一九三〇

一九三一

一九三二

一九三三

一九三四

法

嶠當

六四

一〇五、五四

一五一、七三

二〇一、一〇

二五五、六九

三八二、一〇九、六〇一

二五四、五九〇、三九六

一五七、八七〇、七八二

二〇五、七九四、一四二

二三一、八四五、〇五五

二五四、五九〇、三九六

一一三、八九二、一八三

一一三、一七〇、一六一

一四一、八二七、二七〇

一五九〇、七七三

一六三、三五九、一六一

一九一三

一九一四

一九一五

一九一六

一九一七

一九一八

一九一九

一九二〇

一九二一

一九二二

一九二三

一九二四

一九二五

一九二六

一九二七

一九二八

一九二九

一九三〇

一九三一

一九三二

一九三三

一九三四

法

嶠當

六四

一〇五、五四

一五一、七三

二〇一、一〇

二五五、六九

三八二、一〇九、六〇一

二五四、五九〇、三九六

一五七、八七〇、七八二

二〇五、七九四、一四二

二三一、八四五、〇五五

二五四、五九〇、三九六

一一三、八九二、一八三

一一三、一七〇、一六一

一四一、八二七、二七〇

一五九〇、七七三

一六三、三五九、一六一

一九一三

一九一四

一九一五

一九一六

一九一七

一九一八

一九一九

一九二〇

一九二一

一九二二

一九二三

一九二四

一九二五

一九二六

一九二七

一九二八

一九二九

一九三〇

一九三一

一九三二

一九三三

一九三四

法

嶠當

六四

一〇五、五四

一五一、七三

二〇一、一〇

二五五、六九

三八二、一〇九、六〇一

二五四、五九〇、三九六

一五七、八七〇、七八二

二〇五、七九四、一四二

二三一、八四五、〇五五

二五四、五九〇、三九六

一一三、八九二、一八三

一一三、一七〇、一六一

一四一、八二七、二七〇

一五九〇、七七三

一六三、三五九、一六一

一九一三

一九一四

一九一五

一九一六

一九一七

一九一八

一九一九

一九二〇

一九二一

一九二二

一九二三

一九二四

一九二五

一九二六

一九二七

一九二八

一九二九

一九三〇

一九三一

一九三二

一九三三

一九三四

法

嶠當

六四

一〇五、五四

一五一、七三

二〇一、一〇

二五五、六九

三八二、一〇九、六〇一

二五四、五九〇、三九六

一五七、八七〇、七八二

二〇五、七九四、一四二

二三一、八四五、〇五五

二五四、五九〇、三九六

一一三、八九二、一八三

一一三、一七〇、一六一

一四一、八二七、二七〇

一五九〇、七七三

支那改訂輸入稅率表

●支那改訂輸入税率表 支那改訂輸入税率表中鐵鋼に
關するものを摘錄すれば左の如し。

番號	品名	税率 海關兩	單位
八九	アルミニウム	五 分	從價
九〇	アルミニウム板	五 分	從價
九一	アンチフリクション・メタル	五 分	從價
九二	安知母尼(粗又は精製のもの)	○、七〇	同
九三	安知母尼鑄	五 分	同
九四	條及竿	一 擔	從價
九五	牝牡螺旋釘、鉸釘、座金及附屬品 <small>リヴァーホルト ワッシャー</small>	一 擔	從價
九六	塊(故真鍮又は故黃銅を鎔融したるものと含む)	一 擠	從價
九七	釘	同	從價
九八	古きもの又は屑(改造さるべきもののみに限る)	一、三〇	從價
九九	螺旋釘	五 分	同
一〇〇	板	五 分	同
一一一	管	五 分	同
一二二	錆	一、八〇	同

○最近の歐洲製鐵界

(八幡製鐵所調査)

最近英國の鐵鋼市場は著しき好調を帶び銑鐵の價格は愈強含みで建築界の工事漸次増加し、造船界も頗る刮目すべき好景氣を帶びて來た原料大口の注文を受けたのは印度から鋼一萬噸濠洲方面から其後三萬噸の軌條の注文を見て居る英國製鐵界では大製鋼業者が價格の引下をした向もあるが、夫は簿利多賣で押うとするものらしい、白耳義商人は其在庫中の桁鋼をバーミングハム渡し八磅で賣込んで居るとは大陸相場の上に最も注目に値する現象である斯る狀態で英國西海岸のストックは大部消化されて居る、又加奈陀から二口の鍛力の大注文があり、其一口は二十萬箱に達して居る更に又北米合衆國より引續き石炭の需要あり同國船舶供給の五十七萬六千噸の石炭を積取る爲めに八十六隻の船を英國に向けて居る同時に私立會社でも百萬噸の石炭を積取るべく船を差向けて居るらしい、合衆國に對する英國よりの銑鐵の輸出は今尙多數でミッドロスバロー港からの報道に依ると八月中合衆國に對して銑鐵の船積九千八百六十二噸に達したと云ふが實際は三萬七千九百七十二噸に達して居ると云ふ事である、又同港から鋼の輸出は八月中合計二十六萬五百四十七噸で内八千四百十九噸は印度に輸出して居る。

九月中獨逸の鋼價一萬四千馬克に賣價を引上げたウエスト・フアリ亞、ヘマタイトは目下二萬八千七百九十九馬克邦貨四十七圓の相場である。佛國は製鋼市場が引續き急激の好調を呈し、白耳義は最近多數熔鑄爐の操業を見て居る。

○英國鐵界消息 最近市内某所着の情報に依ると、米

國から相變らず英國に鐵の注文がある、或紐育の會社の如きも鑄物銑及び低燐銑二口一萬噸、ヘマタイト銑二千七百噸を注文したが之は南米に送る目的のものである、従つて英國の鐵工市場は強保合でメリーグラン港の輸出價格は四磅十二志六片(邦貨四十一圓五十錢)である、佛國に於てはローレンの銑鐵業者が鑄物銑五千噸を噸當り五磅(邦貨三十五圓)で米國に送つたが佛國の法爲替相場近來甚だしく下落したため佛國輸出業者は有利な地歩を占めてゐる。而して米國に對する英國の鐵輸出額は九月五萬二千六百噸、十月六萬噸を算し銑鐵注文引續き増加の結果英國銑鐵業者は一齊に爐數を増加した模様であるが年末にかけて銑鐵の價格は騰貴すると觀則されてゐる。

●英國商況

在倫敦 松山商務官來電

石炭 石炭は爲替不利の爲海外の引合減少し輸出も漸減の形勢あり殊に佛國は爲替暴騰の爲註文を取消せり、相場幾分下押アドミラルティ一等炭二十七志六片を唱ふ。

銅 銅は十月末在庫高約二億封度にて内外の需要相當にあるも直に消化せらる市價持合ひ標準銅六十三磅十志、電銅七

十一磅五志なり、目下の相場は生産費より見て決して高きものにあらざれども顯著なる需要も目先を更ふる豫想見えず在荷も相當なれば米國側にて變化なき限り昇騰覺束なし。

鐵及銅 銑鐵は米國の引合杜絕の爲一般に市況軟調なり内地需要相當なるも歐大陸向の輸出は爲替不利の爲不振、ヘマタイトの内地需要喚起稍活躍しクリーブランド三號九十二志六片にて釘附けなり、鋼鐵は内外に買氣付き輸出好況なり、

日本より建築材料、加奈陀よりシップ・プレートの引合あり製鐵業者は先高を見越し賣客みの感あり相場上向なり。

鉢類 シップ・プレート九磅にしてブラック・シートは極東方面の引合盛況にして商相當あるも品薄にて相場手堅く、日本向百七磅もの十五磅十志を唱へ、亞鉛板は原料亞鉛の騰貴に伴ひ強調なり、日本向六分七枚もの二十三磅を唱へ、鍛力は内外需要増加し市價強調、相場十九志九片なり、ワニジの製造業者十一月十日協定最低販賣價額を十九志三片に決議し商人は之に反対し市況不定なるも製造業者は先高を想像し賣客む。

錫 一時暴騰せる錫は近東問題の行惱み並に米國の先物買越しの爲め稍軟調、標準もの百八十磅なり。

●米國商況

在紐育 西商務官來電

鐵及銅 銑鐵市價軟弱にして二十三弗なりウイツド・ブルグ(北オハイオ)一弗方下落し鋼鐵依然製產增加を續け鐵道建築方面に需要莫大なり、燃料價格低落と能率增進の爲生産費低下し先安見込なり。

銅 銅は強調にして電銅十三仙八分の七を唱へ輸出物は一四仙乃至一四仙四五なり、十月中内地消費高一億二千乃至一億三千封度にして輸出高六千萬封度ありたり。

●米國鋼鐵會社買收 ベスレヘム製鋼會社は今回ミド

ウェール製鋼會社を買收した、之でベスレヘム會社は今迄より一年に七百六十萬噸丈け餘計に鋼塊を製造し得ることにつた譯である、買收價格は九千七百六十五萬弗で之はベスレ

ヘム會社の普通株を以て支拂ふこととなつた、檢事總長は右の合併を合法と認めたが聯邦商業委員は幾分反対の意見をして居るらしい。

○英米金物市況 最近倫敦發入電に依れば倫敦に於ける

金物市況は漸次好調を呈し來り銅は先物に人氣集中し錫は最近生産制限の結果相場暴騰し思惑も亦盛に行はるゝに至つた又各種工場に於ける錫の需要は増進し需要家も盛に買込む等の理由に依つて現下爲替が振はないにも拘らず大陸筋も相當に買付けて來た之と同時に米國の太平洋筋も亦大に買込み八月二十五日現物百五十八磅八分の五が百八十七磅半の高値に昂り英米共に錫相場は著しい好況を呈しつゝあり。鉛の消費高は今後大に増加する模様であるが之に反して生産の増加は緩慢である、従つてストックの嵩む様な事はあるまい、而して鐵板は漸次需要増加の傾向となり米國支那印度方面から引合も相當にある、又歐洲大陸物は爲替の關係上割安であるから英國物の引合は多少妨げられてゐる、然し各工場は約五割の作業を續けてゐる。他面米國製鐵界を見るに銑鐵の生産高は最近増加し目下の作業率は全能力の七割五分でユー・エス・チール以外の鋼鐵薄板製造所の作業率は十月に這入つて以來全能力の八割になつた、之れは燃料の供給が増加したのと鐵道運輸が追々圓滑となつた爲で即ち車輛製造用としてだけでも百八十萬噸からの鋼鐵材を必要とするのであるが、車輛の註文は六萬六千臺に達する模様である、鐵道會社以外の鋼鐵需要は減り氣味で、銅は氣配手堅く需要も多少増加、錫は倫敦高を移して愈強調、鉛は氣丈で現物は品薄、亞鉛は相場

高く輸出商談多く、安質母尼は氣配落付で要するに英米共に金物界は順調特に錫は英米共に著しい騰貴である。

○印度銑に脅かさるる銑鐵相場前途 英國の銑

鐵市況は久しく不況であつた爲め相場は一噸八十志見當に低落し一時殆ど各工場共生産休止の状態に陥つたが今春以來米國に勃發した石炭や鐵道のストライキで全國や加奈陀方面から買注文が出たので英國では内地在荷の消化を助け市況も漸次引返して九十二志迄昇騰した、而して九月末米國の輸入税引上の實施を見るに及むて聊か頭を打たれたけれども其後石炭及コーキスの相場が騰貴した爲め之を緩和して目下は九十二志見當と手堅く保合つて居る、尤も此相場では辛うじて生産費を償ふに止まり利益を擧げ得ない状態であるから自然生産高も増加しない従つて當分此相場以下に下押す事は無からうと觀られて居る、而して之れを我國に輸入するとせば横濱沖着値段は五十七八圓見當に附き東京で賣るとすれば七十二圓見當でないと引合はない。

又米國銑は同國內の生産費が高い關係上横濱沖着六十圓見當東京賣では六十五六圓見當に附き内地相場に比して著しく高値であるから一昨年頃より輸入がない、夫れて我國へは只だ英國クリーヴランド銑が特殊用として一ヶ月約一千噸位の輸入を見るに過ぎない近狀である。

翻つて内地の需給關係を見るに内地各工場の生産高は本年一月以降六月迄に七萬八千噸を算し之に海外より輸入した十三萬一千噸(鞍山站並に本溪湖銑をも含む)を加算すれば二十萬九千噸となり、更に昨年十二月末の銑鐵在庫高十八萬九千

六百噸を加へると、三十九萬八千六百噸である、而して本年六月末現在の在庫高は十五萬噸であるから差引廿四萬八千六百噸は一月より六月に至る六ヶ月間の消費高と見るを得べく即ち内地の消費高は一ヶ月平均約四萬一千二三百噸と云ふ譯である（其内九千噸内外は製鋼用で残り三萬二千餘噸は鑄物其他一般用と見られて居る）若し下半期も此状態を以て推移するとせば我國の銑鐵消費高は一ヶ月約五十萬噸で生産は約十五萬噸（右の勘定では十五萬六千噸となるも其後は減少するとも増加する事は無いだらうから内輪に見て）であるから差引三十五萬噸だけは海外よりの輸入に俟たなければならぬ然るに現在の輸入高は前記の如く一箇年二十六萬餘噸なるに依り結局八九萬噸の不足を生ずる勘定となるから内地の各工場が生産を増加せぬ限り在庫品は減少し結局供給不足を來して自然市價は上進するとも低落する事はない筈である。

併し一方低廉なる印度銑の輸入があるので甚だ樂觀を許さない最も現在の所では如何に夫れが低廉であるとも我國の需要を充足する程度でないから差當り大して恐怖するの要もないが既報の如く明春よりバーン銑鐵が日本着値段五十二圓見當（日印通商が日本の一手中販賣者として輸入する計畫だと傳へられて居る）で輸入されるとの説があり、又タタ製鐵會社も現在の生産能力一ヶ月三十五萬噸を二倍即ち七十萬噸に増加するの計畫を樹てゝ居る、尤も之と同時に製鋼をも擴張する方針であるから銑鐵として賣出す餘裕はないと云ふけれども其擴張は當分困難で銑鐵の増産計畫だけは明年中に竣成するらしいから海外に輸出する餘力も自然増加するものと見なければならぬ故に其以後には斯界の一大混亂を惹起する

かも知れないが遠き將來は兎も角として目先は需給關係より見て大した波瀾なく現在市中唱へ相場六十圓内外より結局デリ安歩調を辿るのでは無からうか。

● 鐵線輸入の消長 輸入鐵線は嘗て英國の輸出禁止に

遭遇したる結果内地市場著しく品枯れとなり市價異常なる昂騰を告げたことがあるが當時は恰も内地需要其頂點に達し勢ひ南洋方面に殘留して居る獨逸品を買漁つても尙採算が立つといふ有様であつた、隨つて唯一の仕入地とした米國物がカーネギー・鋼鐵・トラストの販賣値發表後も二流所の各會社から買集めたので時局展開如何を無視し運賃の暴騰を見ても無論と買入れたが、軒て内地市價に對し米國物が採算立たなくなると、今度は手近の支那在荷を買漁ると云ふ實に本品市場開闢以來の盛況を呈した、此の好況に刺戟された内地工業も目醒めた様に起り尼ヶ崎の住友、大阪金網、大阪中井、東京古河、神戸の乾、東京亞鉛、大阪製鐵等が生産を開始した、併し其等の原料線は主に之を外國品に仰ぐので單に鍍金に過ぎないと云ふ有様であるから容易に輸入品を壓倒する譯に行かない、夫に熱狂時代の如きは轉賣に依つても暴利ることが出來たので急拵えの輸入商が二年分も思惑買をやつたが一度不況を傳ふるや内地市價の激落は遂に逆輸出しても間に合ふと云ふまでに悲惨な状態を示した即ち當時の窮餘の一策が支那への再輸出となつたので決して根抵ある輸出でないから現在殆ど杜絶の有様となつたのも偶然ではない之を輸入表に見るに次の如くである決して四圍の事情に支配されないことを示して居る。

大正五年	一千斤	千圓
六	三〇、七六六	四、三二四
七	三〇、九九四	五、八五九
八	三五、二八八	七、五六〇
九	四一、六〇八	七、七九六
十	四三、八五四	八、四九八
十一	四一、八〇六	
十二	六、二五四	

處で本年になつて日本の嗜好を知つた獨逸では所謂日本向なるものを賣込んで來た、而も其品質が米國ものに優り値段も三分の一で斤當り三錢であるから九月末までに七千七百三十二萬八千斤七百九十二萬九千餘圓の巨額に達した、之を昨年同期と比較すれば數量に於て二倍二分の増加であるが價格では僅に三割の増加に過ぎないと云ふ有様である、大體輸入鐵線は電線用の八番線が主で其他三十番線まであるが二十一番線以下八番線までの各種が等分に來る、且從來米國もの八割英國が爾餘の二割を占めて居たが本年は米國物六割獨逸物三割英國物一割と云ふ有様で獨逸品の躍進は廳て米國品を壓倒するものと觀測されて居るが兎に角内地製ても外國の二流所の會社製品と同一程度まで進歩したのであるから無暗と値惚買をやることは考ふべきである。

● 鋼材相場の前途 米國は昨年以來景氣稍恢復し殊に戦後に於ける成金が多かつたので自然同國の鋼材相場は何れも割高であつた、然るに昨年九、十月頃に至り幾分下押を示せる爲め丸釘及針金等は我國に輸入しても引合ふ様になり從つて其當時丸釘とか針金等は相當引合があつた、又之と同時に昨年夏以來平板鍍金用薄板は品質の關係上英國物の輸入を

見合せ盛んに米國に買注文を發したから遂に平板用厚板は我國に於て荷嵩みとなり其供給過剩の結果相場の低落を來し丸釘も針金も矢張り同様の商狀を呈するに至つたが併し今年に入り逐月の輸入超過に因り逼迫せる金融は益々其度を加へて來た關係上此等輸入商談は出來なくなつた、一方獨逸物は昨年二三月以後例の賠償問題に對する倫敦の決義が出來たから其引合の不安も去つたので各種鋼材の引合を開始した所が賠償問題の難關は踵を接して來た爲め獨逸自身の經濟上の關係に因り鋼材製造上の故障を生じたので契約を履行する上に影響を及ぼし其處へ昨年の暮より此春に掛けて獨逸物の相場が引返して來たから餘り引合を見なくなつた、然るに米國に於ける棒鐵の相場が本年二三月頃より稍割安となつた爲め二月より三月の始め頃盛に米國製棒鐵に對する注文が出た勿論米國の棒鐵相場は安くなつたけれども之れは並時物に限られた相場であつてエキストラ物はエキストラ料の高い爲め日本から買附けた物は大體割安なる並時物が多かつた、殊に内地の相場に比較して平板を輸入するものが一番有利なりし關係より米國物として輸入された物は自然平板も多かつた、斯く平板の輸入増加の結果は勢ひ内地平板相場を崩した折柄米國の炭礦ストライキや鐵道ストライキ勃發の爲鋼材製造上及び運搬上の故障を生じ各工場等操業短縮の已むなき状態に陥り甚だしきは全能力の五割しか動かなかつた者さへあつた、従つて米國の鋼材相場は著しく強調となり、他面我内地金融の梗塞と相俟つて益々引合困難となつた、其後獨逸は賠償問題に就き行詰りの状態となり紙幣の濫發、物價騰貴の結果財政上著しく不安となり、馬克は暴落に暴落を重ね十月より十

一月に掛けては三萬より三萬臺となり最高四萬馬克以上を示した事は、爲に獨逸物の棒鐵並時物は横濱渡にて一噸百圓以下の相場を出したものである。此安値を以て細いエキストラ物の引合が出來其後も馬克は大體好くないから尙大體此見當で商談が出來るのであるが何分獨逸の國情不安があり且又内地は金融並に市況の香ばしくないので一般に多少之が引合を躊躇する氣味である、尤も右の如く馬克が下れば一見輸入採算上有利となるが如く考へられるけれども、一而獨逸國內に於ける生産費は馬克の低落に伴れて高くなるのであるから先づ獨逸物も之以下の安値を現す事は無からうと觀測せられて居る、更に英國に於ける状態を見ると原料、勞銀其他の關係に依り他國と競争の出來ない程割高となつたが今や戦後の改革も着々其緒に就き各製造家共品質の改善及生産費の低下と云ふ事に銳意努力してゐるから漸次他國品と競争じ得る地位に進み得るに相違ない（昨今獨逸物の安いのは生産費關係より來たものでなく馬克相場の暴落と云ふ特殊の關係より來たものであるから之れとは無論競争は出來ないが）併し薄板、鍼力板等に就ては製造家の間に無用の競争を避ける爲め一種のシンジケートを組織して製造販賣方面の協定を爲しつゝあるから廳て一般經濟狀態に順應した自然の相場を出す事となるであらう。

海外市場に於ける鋼材市況は大體前記の通りであるが翻つて内地の状況を見るに華盛頓會議の結果に因る軍備制限により從來海軍又は造船所を當にして居つた鋼材製造業者は其方面の需要が減少しただけ一般市場に振替へなければならぬが、資金は固定し及物價並に労働賃銀が依然として低下しな

いので生産費は一向低下せず、爲に獨逸の安値物と競争して行く事が出來ぬ程苦しい状態に陥り既に工場の作業を中止したものもあり然らざる者も製品の賣行が悪く其在庫品は増加する一方である、現に日本鋼管會社や釜石工場の如きは一部ロールの組替を行ひ多少共賣の好い品物を製造して兎も角作業を繼續して行かうと云ふ方針に出でるやうであるが、此等は數量から見て大した事ではない。

先づ我國で一番大きいのは何と云つても八幡製鐵所で同所は今年春頃に於ける高値約定の残りを控へて居る爲め一層窮境に陥り現在同所の在庫品は約八九萬噸を擁し其内一般市中向のものは約二萬五六千噸と稱せられて居る、加之此春以來賣拔と先物賣出に就き種々苦心中であつたが遂に之に對し適切なる方策はなかつたらしい現に最近になつて愈々先物の拂下發表をしたけれど其時期が悪いのと恰も獨逸物が安値を唱へて居る時に際會したので果して引受者があるか何うか大に懸念されて居る。

要するに内地の状況は昨年夏頃より今日迄少しでも海外の相場が安いと直に思惑買が伴つたので何時も輸入品の到着しつゝあるから廳て一般經濟狀態に順應した自然の相場を出した爲め之に依つて儲けた者は少かつた、従つて鋼材商の金融狀態は甚だ苦しい模様で中には微力なるブローカーの如き整理の己むなきに至つたものもある、此形勢は恐らく今年末迄何等改善を見る事は出來ないのみならず、明春の金融に對し依然相當の苦心を要するであらう、夫れに一般經濟界も目先著しく改善せられないとすれば當分恢復の見込はないかも

知れぬ何となれば明年の一月は新舊の正月氣分で取引不活潑の時期であるから何れにしても三四月頃にならなければ分らぬが併し此時分になると最近買附けた獨逸の安値物も到着（多少積遅れとなるかも知れぬが順調に積出すとして）するだらうから之が市價に相當影響を與ふるものと見なければならぬ、而も其頃は内地製造家も何等かの方策を講ぜねばならぬ時であり一方金融關係と相俟つて先づ其上半期中は特別の事情なき限り現在市場の唱へ相場たる丸棒四分十貫目四圓七十五錢、同五分四圓二十五錢、同六分四圓二十五錢、同角四分四圓五十錢、同五分四圓四十錢、同六分四圓三十錢、板（三六物）五厘五圓四十錢、同八厘六圓二十錢、同一分五圓八十錢、厚板四圓十錢、番板六圓二十錢、十三枚物（一枚）七十錢、八番線六圓三十錢、丸釘〇三五物（一樽）十一圓、鍼力板百七十封度物二十二圓、同百封度物十二圓、平板（一枚）一圓押すものと見られてゐる、但し當業者は内地市況の大勢に鑑み仕入に對して縮少方針を執る様になり、且つ在庫品は逐月減少の趨勢に在るから此點より又大なる悲觀の要もないと思はれる。

● 印度鐵解約交渉　印度タタ製鐵所の職工同盟罷業が去る十月より十一月に亘り繼續したので、鈴木商店及川崎造船の輸入契約に爲る銑鐵の積出遲延したるを以て、鈴木商店は十月の契約を解除し、尙十一月分積出分に對しても目下解除を交渉中である、解除の理由は勿論契約積出期間を経過したと云ふのに原因して居るが、同社の舊契約は大正六年より

毎月二千五百噸、合計十五萬噸、價格は稅金抜横濱沖着一噸九十八圓七十錢にして、新契約は本年十月より明年三月迄一箇月五千噸、合計六萬噸にして、價格は四十二圓四十五錢であるから、新契約値段は市場率よりも比較的低廉であるが、舊契約が高價であるため兩者を平約するも尙ほ七十五圓に當り、目下の輪西一號六十一圓見當であるから、同店としては成るべく解約を希望し損失の程度を輕減せしめんとするの意志であると云ふ。

● 亞鉛板暴落　亞鉛引平板及び波板は本年五六月の需要期に於て一圓六七十錢を稱へて居つたが、其後漸次下落し現在は九十五錢乃至一圓に迄暴落するに至つた、勿論是等は需量減少の結果ではあるが、更に製造家及び問屋筋が年末の金融に逼られ已むを得ず無採算の投賣をなしたるに由るので、目下の輸入薄板は英國もの六十二錢、米國もの七十錢で、之れに鍍金貨一枚當り三十五六錢を加ふれば少なくも一圓内外にして、若し右の如き値段では製造家及問屋筋の手數料は皆無である、其れにも拘らず一圓内外で投賣して居るから市場は殆んど亂調子を來し何れも賣急ぎに焦つて居るが、市場の手持品は尙三千五六百噸を有し、尙原板薄板十二枚もの十三枚もの合計五萬噸の在庫品あるに加へ、本年六七月頃の註文品が十二月より明年一月に亘り英米兩國より輸入さるるから平板値段は今後更に下落すべく豫想されて居る。